

サムスンの人材育成

経営センスを磨き、会社の将来を担う人材に

— サムスンMBA —

未来のサムスンを支える人材は、専門性に優れているだけでなく、経営的な視点も持ち合わせることを求められる。「サムスンMBA」は、若いビジネスリーダーにMBA(経営学修士号)取得の機会を与え、経営者としての資質を高めることを目的とした、独自の人材育成制度だ。

経験積むほど勉強が必要に



「目標は日本専門家」と語る鄭

エンジニアなどが、技術面と経営面の両方の視点から会社全体を見渡せるリーダーとなるのを目指すプログラムだ。

応募資格は20代後半から30代で、仕事の業績や語学能力が選考基準となる。数回の面接を受けた後に派遣先が決定する。派遣先は欧米や日本、韓国のビジネススクールだ。派遣中は授業料や生活費全般を会社が負担し、給与も支給する。会社への報告義務などは課せられない。

1995年にスタートして以来、既に500人を超える社員がMBAを取得している。

2006年、サムスンSDIの鄭基榮(ジョン・キョン)はこの制度を利用して、慶應義塾大学大学院経営管理研究科のMBAコースに入った。入社以来、日本企業向けにプラウニングの営業を担当していた鄭は、現場経験を重ねるうちに、「お客様

にもっと満足いただくには、営業戦略の立案や分析能力、マーケティング力を伸ばす必要がある」と痛感するようになる。経営学を体系的に学んだことがない鄭に、上司がMBA留学を後押しした。

不況でも変わらぬ支援

日常業務で日本企業と接していた鄭は、迷わず日本留学を選んだ。授業では実在する企業の事例を基に、経営者の視点で会社を動かす戦略を立て、分析し、実行する。学習を重ね、論理的な思考力を身に付けた。視野も広がった。クラスメートは医師や弁護士、会計士と個性的な顔ぶれに加え、米国や豪州からの留学生と国際色も豊かだ。仲間と競い合って勉強するうちに鄭は、「自分はサムスン代表」として恥ずかしくないように努力しなければ」と、責任感と同時に会社への愛着が増したという。



鄭はクラスメートと交流を深める

「会社に戻ったら、学習の成果を仕事の現場に生かし、日本専門家」となっただけでなく、韓の橋渡し役になりたい」と鄭。

99年に韓国内のビジネススクールに通い、現在は日本サムスンの半導体・LCD事業部に勤める金鎮赫(キム・ジンヒョク)は、「当時の韓国は、いわゆるIMFショックで不況の真っただ中だったが、会社は私を支援し、MBA取得の機会を与えてくれた。本当にありがたかった」と振り返る。

既に実務経験を積んでいる金は、「MBA取得後、新技術の動向などの情報をお客様のために戦略的に応用できるようになった」と語る。サムスは人材育成において不断の努力を続け、多彩な能力を備えた未来の経営者を輩出していく。

一筆お礼まで

前号でご紹介した韓国の「天安少年院セラピー犬プログラム」の現場を、このたび本誌スタッフが取材してまいりました。サムスは少年院の中に犬舎を設置し、受刑者の少年たちに世話をしてもらうことで、他者を慈しむ温かい心を取り戻してほしい、とこのプログラムを支援しています。

飼育されているのは、一度は人間に捨てられ、処分される運命にあった犬たち。訓練は、傷つき人間を信じられなくなった犬の心をいやすことから始まり、やがてセラピー犬として成長するまで3カ月間続きます。サムスンから派遣されているセラピー犬訓練士の一人は、少年たちの心に変化が芽生えていることを時折実感できると言います。

訓練を終え、福祉施設や一般家庭に引き取られるため7月に行われた「譲渡式」に、刑務所の外から立ち会いました。犬との別れを惜しむ少年たちに、命の力とプログラムの意義を感じました。

サムスンの「核心価値」



news letter 「サムスンからの手紙」に関するお問い合わせ

日本サムスン株式会社 戦略企画室 Social Relations Team
〒106-8532 東京都港区六本木3-1-1 六本木ティーキューブ
TEL: 03-6234-2047 (広報直通) FAX: 03-6234-2040
E-mail: pr-sjc@samsung.com URL: www.samsung.com/jp

記載されている会社名/製品名などは各社の商標または登録商標です。

